

# 特別史跡 『彦根城』

— 県立彦根東高等学校資料室建設に伴う発掘調査報告書 —

1986

滋賀県教育委員会  
滋賀県文化財保護協会

# 特別史跡 『彦根城』

— 県立彦根東高等学校資料室建設に伴う発掘調査報告書 —

1986

滋賀県教育委員会

財団法人 滋賀県文化財保護協会

## 序

滋賀県教育委員会では活力のある県民社会、生きがいのある生活を築くための一つとして、文化環境づくりにとりにくんでいます。そうした中で文化財の保存と活用を図る施策のうち、開発に伴う埋蔵文化財の保護も重要な課題となっております。

先人の遺してくれた文化財は、現代を生きる我々のみならず子々孫々に至る貴重な宝でもあります。このような大切な文化遺産を破壊することなく、後世に引き継いでいくためには、広く県民の方々の文化財に対する深いご理解とご協力を得なければなりません。

ここに県立彦根東高等学校資料室建設に伴う事前発掘調査の成果を取りまとめましたので、ご高覧のうえ今後の埋蔵文化財保護のご理解に役だてていただければ幸いです。

最後に、発掘調査の円滑な実施にご理解とご協力を頂きました、地元の方々並びに関係機関に対して厚く感謝の意を表します。

昭和62年3月

滋賀県教育委員会

教育長 飯田 志農夫

## 例 言

1. 本書は、滋賀県立彦根東高等学校校舎増築（資料室）の文化庁長官への現状変更に伴う特別史跡彦根城跡の発掘調査報告書で、昭和61年度に発掘調査し、整理したものである。
2. 本調査は、滋賀県教育委員会事務局総務課長の依頼により、滋賀県教育委員会を調査主体とし、財団法人滋賀県文化財保護協会を調査機関として実施した。
3. 調査にあたっては彦根市教育委員会、彦根市博物館および県立彦根東高等学校の協力を得た。
4. 本書で使用した方位は磁針方位に基づき、高さについては東京湾の平均海面を基準としている。
5. 本事業の事務局は次の通りである。

### 滋賀県教育委員会 文化部 文化財保護課

|            |       |
|------------|-------|
| 課長         | 服部 正  |
| 課長補佐       | 田口宇一郎 |
| 埋蔵文化財係長    | 林 博通  |
| 埋蔵文化財係主任技師 | 用田 政晴 |
| 管理係主任主事    | 山本 徳樹 |

### 財団法人 滋賀県文化財保護協会

|              |       |
|--------------|-------|
| 理事長          | 南 光雄  |
| 事務局長         | 中島 良一 |
| 埋蔵文化財課長      | 近藤 滋  |
| 埋蔵文化財課調査二係長  | 大橋 信弥 |
| 埋蔵文化財課調査二係技師 | 清水 尚  |
| 総務課長         | 山下 弘  |
| 総務課主事        | 泉 喜子  |

6. 本書の執筆および編集は清水 尚が担当し、林 敦子が補佐した。
7. 出土遺物や写真、図面については滋賀県教育委員会で保管している。

## 目 次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1. はじめに～調査の経緯 .....   | 3  |
| 2. 位置と歴史 .....        | 3  |
| 3. 調査の結果 .....        | 5  |
| a. 層位                 |    |
| b. 遺構                 |    |
| c. 遺物                 |    |
| 4. 調査の成果～結びにかえて ..... | 14 |
| 5. おわりに .....         | 17 |

## 図 版 目 次

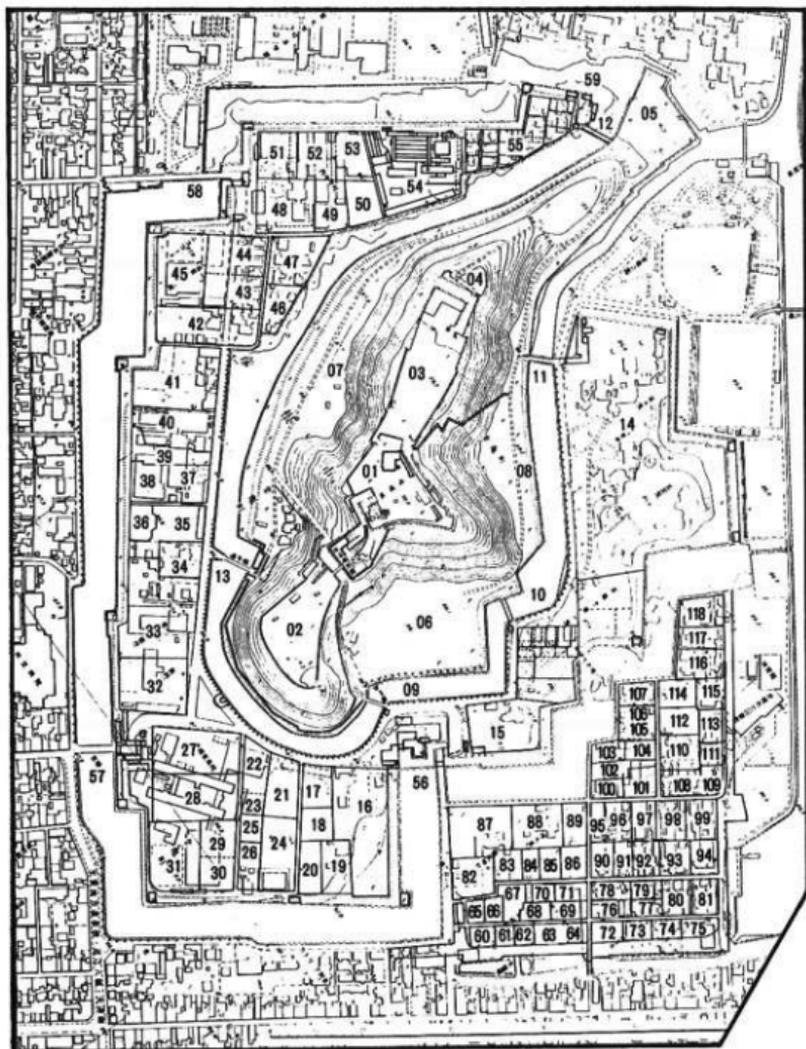
- 図版 1. (上) 調査前状況 (北東より)  
(下) 第一遺構而全景 (北東より)
- 図版 2. (上) SD01 石組部分と周辺の遺構群 (南東より)  
(下) SD01 パラス検出状況 (南より)
- 図版 3. (上) SX02 (北西より)  
(下) SX01 (南西より)
- 図版 4. (上) SK02 (北より)  
(下) SK01 (東より)
- 図版 5. (上) SX03 (東より)  
(下) SX05 (北東より)
- 図版 6. (上) トレンチ全景 (東より)  
(下) SX04 (北西より)
- 図版 7. 遺物・染付 (SX04)
- 図版 8. 遺物・染付 (SX04)
- 図版 9. 遺物・陶磁器 (SX04)
- 図版 10. 遺物・行平鍋他 (SX04)
- 図版 11. 遺物・陶磁器 (SX04)
- 図版 12. 遺物・陶器 (SX04、SX02、SX05)
- 図版 13. 遺物・染付他 (その他遺構内)
- 図版 14. 遺物・陶器および木製品 (その他遺構内)
- 図版 15. 遺物・陶磁器 (包含層)
- 図版 16. 遺物・蓋類
- 図版 17. 遺物・陶器他
- 図版 18. 遺物・(上) 瓦  
(下) 硯および砥石
- 図版 19. 遺物・(上) 焼塩壺  
(下) 人形 他
- 図版 20. 遺物・(上) 金属製品 (SX04)  
(下) 金属製品

## 挿 図 目 次

|     |                        |    |
|-----|------------------------|----|
| 第1図 | 現況地図に「御城下惣絵図」の屋敷割を重ねた図 | 1  |
| 第2図 | 調査位置とトレンチ配置            | 4  |
| 第3図 | トレンチ断面図                | 6  |
| 第4図 | 遺構全体図および断面図            | 6  |
| 第5図 | 遺構平面図および断面図            | 8  |
| 第6図 | 遺構平面図および断面図            | 10 |
| 第7図 | 遺物実測図                  | 11 |
| 第8図 | 遺物実測図                  | 12 |

## 表 目 次

|     |                   |    |
|-----|-------------------|----|
| 第1表 | 彦根城関係略年表および彦根藩主系図 | 18 |
| 第2表 | 遺物観察表 (1)         | 19 |
| 第3表 | 遺物観察表 (2)         | 20 |
| 第4表 | 遺物観察表 (3)         | 21 |
| 第5表 | 遺物観察表 (4)         | 22 |
| 第6表 | 遺物観察表 (5)         | 23 |



第1図 現況地図に「御城下惣絵図」の屋敷割を重ねた図  
 (特別史跡、彦根城発掘調査報告書Ⅰ-彦根西中学校  
 校校内武家屋敷<sup>①</sup>より転載)

- |                   |                   |                    |
|-------------------|-------------------|--------------------|
| 01. 木丸            | 41. 中野若狭          | 81. 仙設佐介           |
| 02. 繪の丸           | 42. 武節實治          | 82. 脇藤次・脇藏人        |
| 03. 西の丸           | 43. {             | 83. 増田祝之介          |
| 04. 入賞郭           | 44. 小野田基之助→小野田小一郎 | 84. 小森和次郎          |
| 05. 山崎郭           | 45. 宇津木下總→宇津木猛雄   | 85. 曾根七郎平          |
| 06. 表御殿           | 46. {             | 86. 吉木平十郎          |
| 07. 米蔵            | 47. 岡本半介→石上省己     | 87. 三浦与右衛門         |
| 08. 材木蔵           | 48. 印其寿之介(直孝母の里)  | 88. 御屋敷(埋木倉)大久保幸男  |
| 09. 表門            | 49. 酒屋右膳          | 89. 三浦朱水           |
| 10. 裏門            | 50. 今村凌二          | 90. 横川源藏           |
| 11. 黒門            | 51. 吉田六郎          | 91. 河守個人           |
| 12. 山崎門           | 52. 天野康文          | 92. 橋本建太郎          |
| 13. 大手門           | 53. 庵原乾三郎         | 93. 松沢辰藏→松沢勢       |
| 14. 櫻御殿(豪士の別邸)    | 54. 弘道館(藩校)       | 94. 竹花小右衛門         |
| 15. 木俣土佐          | 55. 作事小屋          | 95. 松居喜三郎          |
| 16. 脇伊織           | 56. 佐和口           | 96. 林七郎右・門→林弥五郎    |
| 17. 増田氏           | 57. 京橋口           | 97. 堀野多三郎          |
| 18. 朝比奈藤右・門→朝比奈茂己 | 58. 船町口           | 98. 大久保小橋→佐藤省二     |
| 19. {             | 59. 長橋口(開かず口)     | 99. 加茂八藏           |
| 20. 新野大隅(直中10男)   | 60. 竹原留三郎         | 100. 池田芥介→池田太一郎    |
| 21. {             | 61. 浅居忠藏          | 101. 大久保九一郎→大久保孫七郎 |
| 22. 築後榊御屋敷(直中の子)  | 62. 浦上藤馬          | 102. 眞野善次          |
| 23. {             | 63. 清瀬宗寿郎         | 103. 村上十右・門        |
| 24. 犬塚求之介         | 64. 渡辺勘十郎         | 104. 岡沢健三          |
| 25. {             | 65. 四辺専太          | 105. 箕形惣左・門        |
| 26. 戸塚佐木夫         | 66. 丸山一太夫         | 106. 石原西右・門        |
| 27. {             | 67. 曾根敷三郎         | 107. 石原善平          |
| 28. 長野伊豆          | 68. 山根善五右・門       | 108. 西堀治平          |
| 29. 木下周吉          | 69. 八木原謙二郎        | 109. 大久保輝次         |
| 30. 広瀬美濃          | 70. 八木原熊弥         | 110. 三浦九右・門→三浦角次   |
| 31. 西山内蔵允         | 71. 秋山誠一          | 111. 渡辺友次郎         |
| 32. 西郷伊豫          | 72. 岡島丹藏          | 112. 石居半平          |
| 33. 庵原主税助         | 73. 竹岡衛士          | 113. 吉川一細谷・学       |
| 34. 藤田半入→藤田つ次     | 74. 神尾吉弘          | 114. 石居清藏          |
| 35. 内藤茂春          | 75. 松原善兵衛         | 115. 萩原八十郎         |
| 36. 奥山忠衛          | 76. 越石小源太         | 116. 大久保修          |
| 37. {             | 77. 三田村静人         | 117. 橋本源五郎         |
| 38. 横地松二郎         | 78. 内藤老右衛門        | 118. 富田六三郎         |
| 39. 奥山右膳          | 79. 磯島与敷五郎        | 119. 霞地            |
| 40. 木俣格遣          | 80. 松居八郎介         |                    |

(注・矢印を付した名前は、左が修正前の刊記できたもの、右は修正後のものである。)

## 1. はじめに～調査の経緯

本報告書は、彦根市金亀町4番7号に所在する滋賀県立彦根東高等学校の校舎増築（資料室）の文化庁長官への現状変更申請に伴って実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を収めたものである。

彦根城跡は、天守を中心とする第1郭および内濠から中濠の間の第2郭に第3郭の「埋木舎」を含めた地が、国の特別史跡に指定されている。これまでに彦根市教育委員会、彦根市博物館の古文書、古絵図等の調査研究によって、城下の屋敷割りが明らかにされ、第2郭には家老以下一千石前後の高禄の士分の邸宅および藩主の別邸観御殿や作事小屋、第3郭には武家屋敷と町屋、第4郭には町屋および足輕の組屋敷等の存在が報告されている。更には「御城下惣絵図」によって、江戸時代末期（天保7年-1836）から明治時代初期にかけての屋敷割りに対する該当居住者の名が確認され、木調査地は長野伊豆、西山内蔵允の両屋敷地のほぼ境界付近にあることが窺知された。

本調査地は学校内であり、夏期休業の間とはいえ登校する生徒も多く、安全の確保に努めた。また校舎に隣接しているため、夏期講習等の妨げにならない様重機の使用は必要最小限に止めた。調査終了後は県教育委員会の指示に従い埋め戻しを行ない、建物の設計変更を図り、遺構保存に努めた。本調査にあたっては円城伸彦、沢田具高、植野克志、安岡扶紀の諸氏の参加を得た。

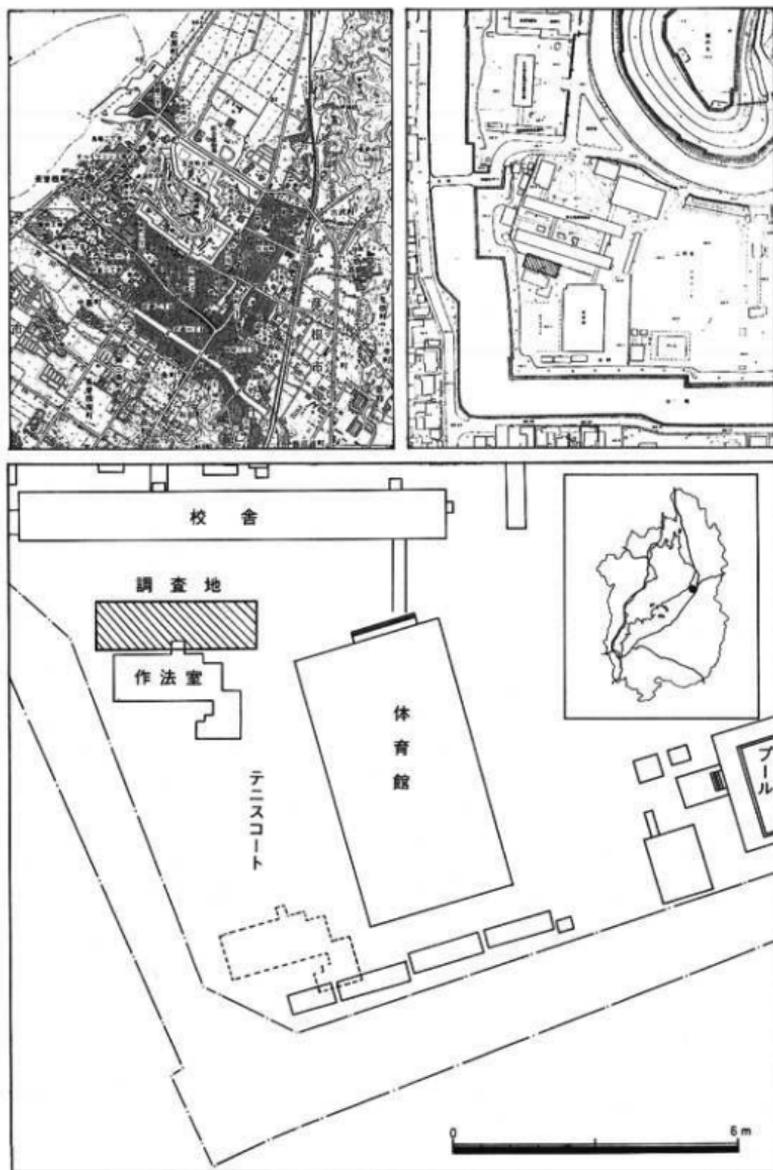
## 2. 位置と歴史

彦根城の歴史は慶長八年（1603）に始まる。彦根城が構築される以前の彦根山（金亀山）には平安時代より真宮宗の聖地として栄えた彦根寺があり、一帯に堂塔が立ち並ぶ景観が想像される。「彦根古絵図」には、北に松原内湖が水を灌え、東に芹川が北流し、西は琵琶湖に面する彦根山周辺の風景が描かれている。

この彦根山は周囲の礫山、大堀山などと同様に秩父古成層から形成され、長い間湖中の一島であったことが知られており、その後芹川などの沖積作用によって周辺部は一部を内湖として湖水を残した低陸化され、広大な水田が営まれた様である。

彦根城の東方、松原内湖に面した佐和山には佐和山城がある。幾久年間、佐保時綱の時代にはその存在が知られ、その後佐々木六角の領有となり、戦乱の時代を経て石三成城主の時代に城下が整備されて彦根城下の母体ともいべき姿が形成された。

慶長八年、井伊直継藩主の時、徳川家康の特命によって彦根城の築城が開始された。しかし、十二の大名の応援にもかかわらず、芹川の流路変更など大規模な土木工事を必要としたため、城下町を含めたその整備事業には約四十年の歳月を要したといわれている。



第2図 調査位置とトレンチ配置

### 3. 調査の結果

#### a. 層位

調査区は、彦根城一帯が城郭としての機能を必要としなくなった明治維新以後、陸軍省関係の建物から現在の彦根東高校校舎まで後世の構築物建設時における掘り込みや整地によってかなりの層位攪乱が観察された。殊にトレンチの東側半面ではその傾向が著しく、現地表面より約1.5m以上下部までレンガ組の構築物が残存している。

調査区全面は学校建設時の造成で搬入されたと考えられる客土、整地土で覆われており、その厚さは約0.3～0.4mを測る。後世の攪乱の影響が及ばなかった中壕に近いトレンチ西側半面では、この表土から整地土、更に厚さ約0.05mの焼土を多く含む黒褐色土の堆積を除去した黄灰色粘質土上面で武家屋敷に関連する遺構面が検出された。

攪乱の著しいトレンチ東側半面では一部に黄灰色土が残存するものの武家屋敷に関連する明確な遺構は検出されず、更に約0.3m掘り下げた暗茶褐色混雑土上面で不整形な浅い土塊群を検出し第2遺構面とした。

#### b. 遺構

##### <第1遺構面>

SD01 トレンチ西半面を北東方向から南西方向へ斜めに横切る幅約0.5mの溝。西端部分のみ約5m石組が残存していた。東より西に向かって流れており、土塁を暗渠で通して中壕に注ぐと考えられる。石組溝内に落ちる石は暗渠時の蓋石であろう。検出部分の中央より東側では溝内に約0.1mの厚さでパラスが敷かれていた。

SK01 トレンチのほぼ中央に在る径約1mの円形土塊。深さ約0.6mを測る。土塊内からは底部に径約3cmの円孔を穿った大型の甕の破片が検出された。

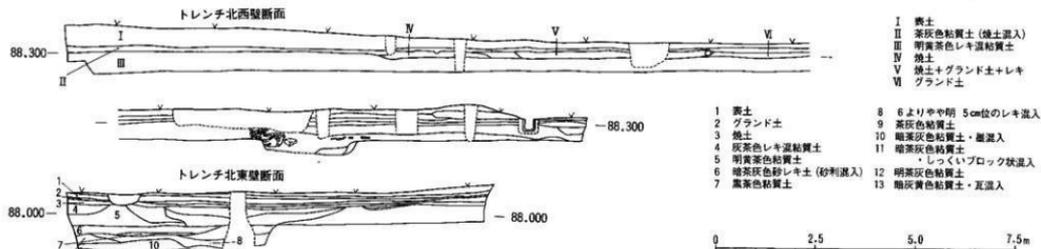
SK02 SD01の石組部分付近に位置する一辺約1.9mの方形土塊。深さ約0.7m、南端最深部は約0.9mを測る。底部より土師質小皿などが検出されている。

SX01 SD01の石組部分の北側に隣接する長辺1.6m、短辺1.1mの漆喰製遺構。周囲の漆喰壁は破損しており木束の深さは判然としませんが、現況では約6cmを測る。北西側に径約0.3m、深さ約0.1mで円形に落ち込む部分がある。

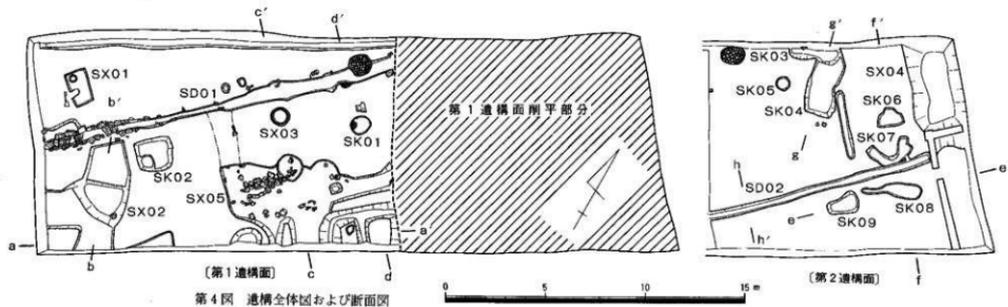
SX02 トレンチ南端部にある不整形な落ち込み。最深部で約0.3mを測る。埋土は漆喰と漆喰混入土で、漆喰の廃棄土塊の可能性が高い。

SX03 径約0.9mの円形をなす漆喰製遺構。深さは約0.25mを測る。

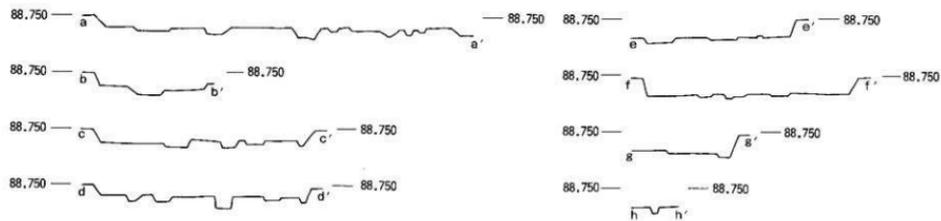
SX05 SX03の南側に位置する不整形な集石遺構。廃棄された石が集められたものか、

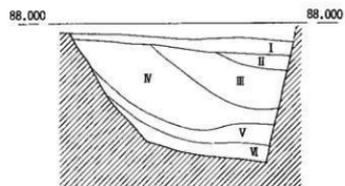
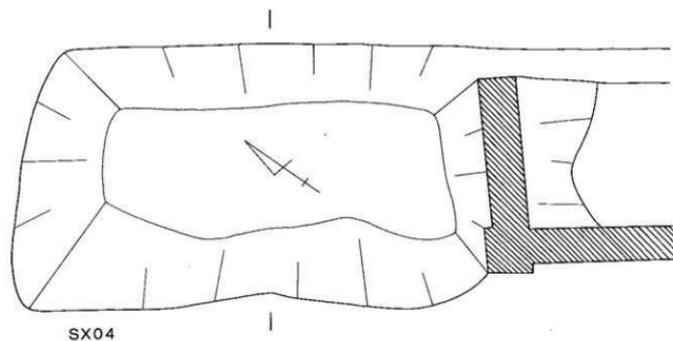


第3図 トレンチ断面図



第4図 遺構全体図および断面図



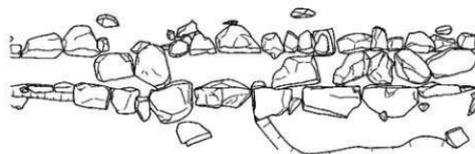


- I 明黄灰色粘質土層
- II 暗茶灰色砂レキ土 (5mm程度の砂粒混入)
- III 暗茶灰色粘質土 層混入
- IV 暗茶灰色粘質土 (しつくいブロック状混入)
- V 明黄灰色粘質土層
- VI 暗黄灰色粘質土 (瓦混入層)

88,400



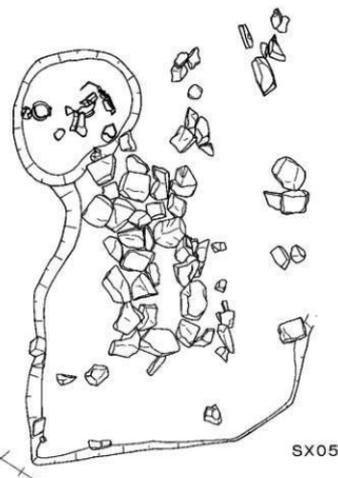
88,400



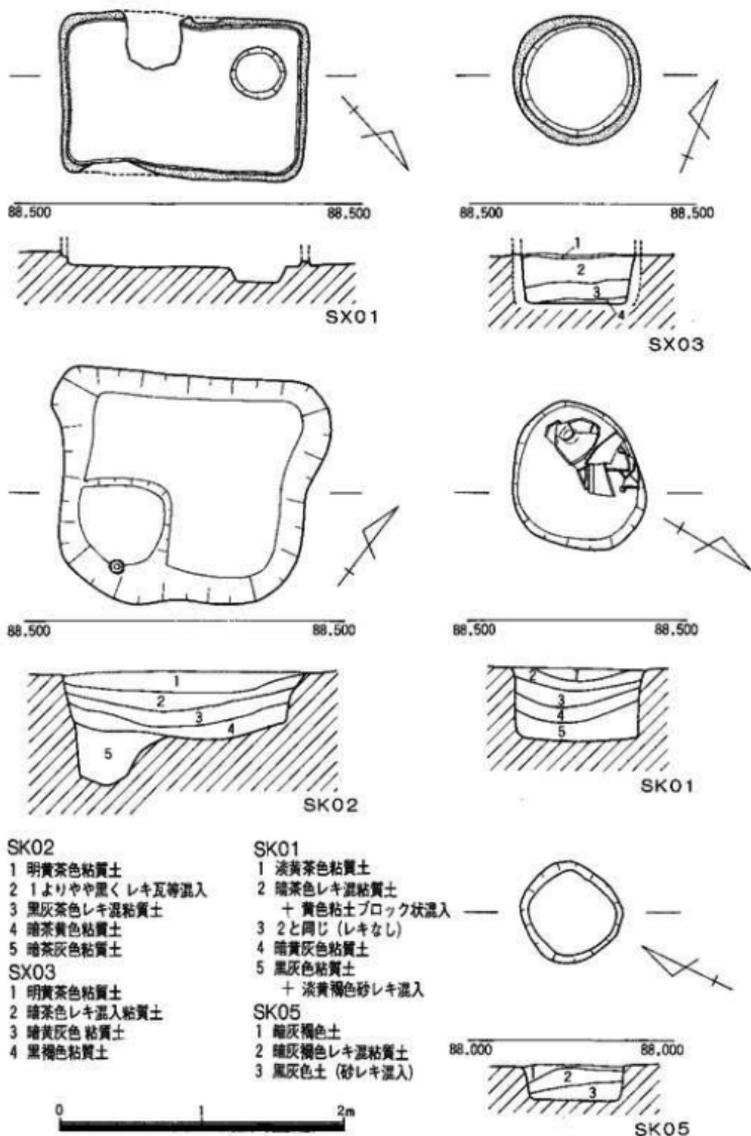
88,400

SD01 石組部分

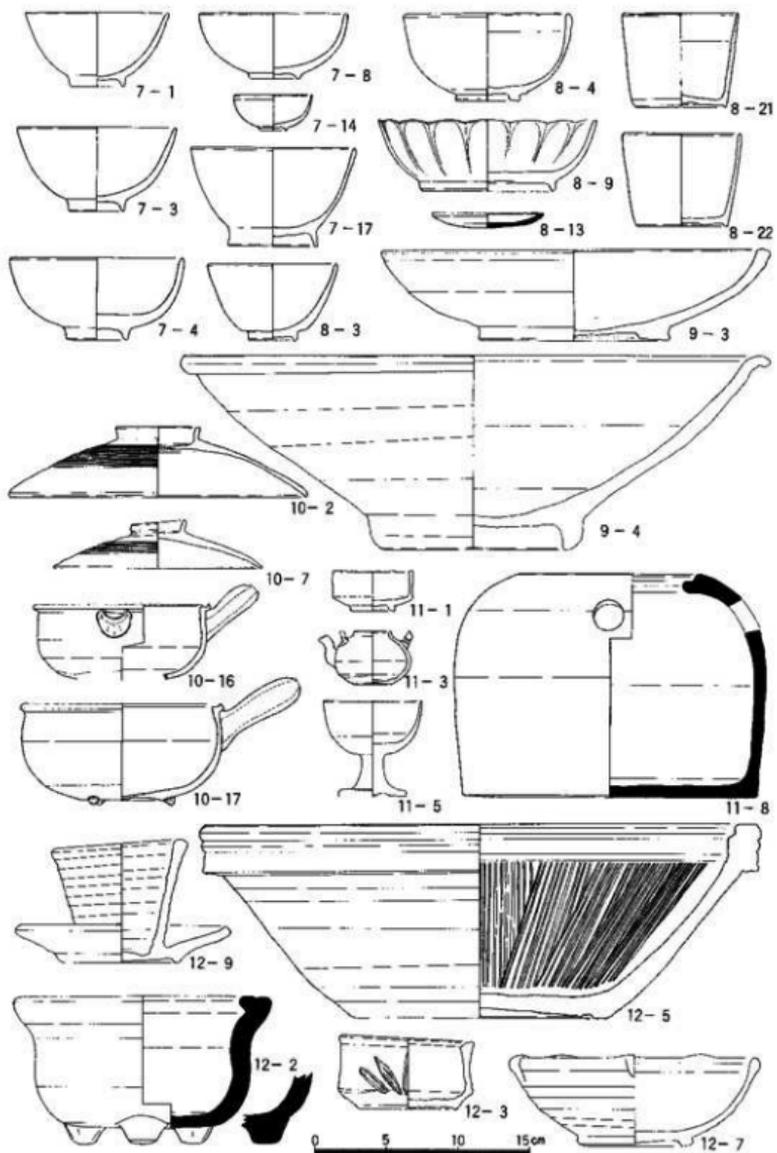
88,400



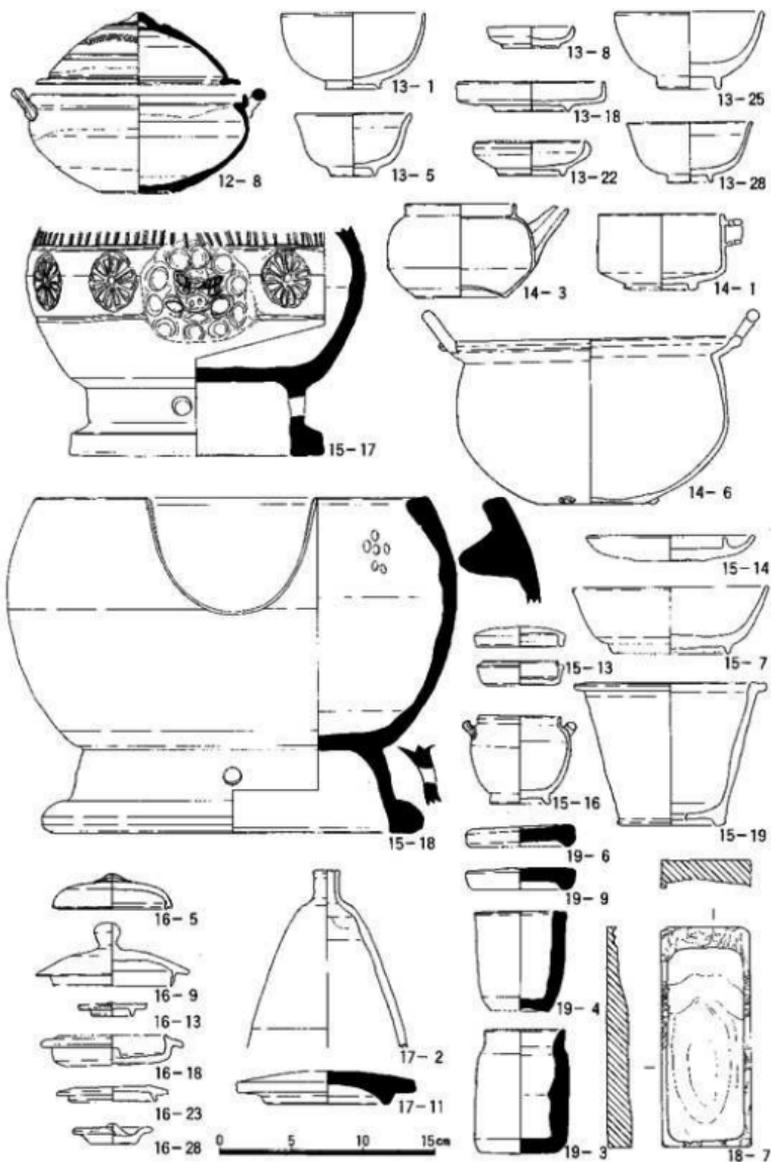
第5図 遺構平面図および断面図



第6図 遺構平面図および断面図



第7图 遗物实测图



第8图 遗物实测图

何らかの石組遺構が瓦解したのか判然としない。

### <第2遺構面>

SD02 第2遺構面のほぼ中央に位置する幅約0.5mの溝。深さ約0.25mを測る。流出方向はSD01と同様。第1遺構面に存した溝の底部の残存部分と考えられる。

SK03 長辺約2.2m、短辺約0.7mの不整形な長方形土壌。深さ約0.3m。

SK04 SK03の北方に重複して位置する長辺約3m、短辺約1.3mの長形土壌。深さ約0.15mを測る。焼土を埋土とする。

SK05 SK03の北側にある径約0.7mの円形土壌。深さ約0.25mを測る。底に平瓦が敷かれていた。

SK06～SK10 SD02の東側周辺に位置する不整形な土壌群。深さは約0.1m。

SX04 トレンチ北東端部に位置する長辺約5.3m、短辺約2.6mの大型の長形土壌。深さ約2mを測る。廃棄土壌の可能性が濃い。埋土はかなり分層されるがほぼ同一時期の堆積と考えられる。多量の陶磁器の他、最深部より漆器碗などの木製品を出土した。本調査出土近世陶磁器の約35～40%がこの埋土内より出土している。

### c. 遺物

本調査において出土した遺物は近世陶磁器を主体として量、種共に予想を遙かに上回るものであり、本報告においてはその総てを資料化することが出来なかった。隣接する昭和55年の体育館建設に伴う調査、昭和58～59年の彦根市博物館建設に伴う彦根城表御殿の調査、昭和60年の彦根西中学校校内の調査など彦根城周辺の発掘調査における出土遺物を総合的に分析し、資料化することは、近世陶磁史に貴重な一石を投ずることになるだろう。その機会に備えるために今後も全遺物の資料化に務めたい。本報告では可能な限りにおいて主要な遺物を掲載し、図版15までの遺物については観察表に詳細を記した。以下、概略を述べる。<sup>③</sup>

#### SX04出土遺物

図版7-1より図版12-2までが全てSX04出土遺物である。組成比率の最も高いのが染付の磁器碗で、全体の50～55%以上を占める。その中でも口径約10～11cmの大きさのものが圧倒的に多く、内「高高台碗」とか「くらわんか碗」とかいわれる高台径の大きな碗の割合が30%を超えるほど高いのが目をひく。

これに対して染付の磁器皿が不思議なほど少なく、さらに図版8-8、11などの様に蓋と判断されるものも多く、碗皿の比率は8：2に近い数値を示す。現代の感覚からは当時の食膳具のセット関係に疑問を抱かざるを得ない。

その他、青磁が皆無で、いわゆる青磁釉と染付を組み合わせるものが数点みられるのみである。また、風呂が瓦質のもの2個体、土質のもの3個体確認されており、体育館調査区と同様に茶道具としてばかりでなく台所用具として使用されていた可能性が高い。さらには、行平鍋の割合が高いのも一特色であり、10～15%にのぼるものと考えられる。

#### その他の出土遺物

まず、出土遺物観察表に掲載し得なかった図版16以下の遺物に簡単な観察を加えたい。

図版16は蓋類。1～5は蓋物、6は香合、いずれも磁質胎土で染付。7～29は土瓶、急須類の蓋。

図版17-1、2は徳利。3は油壺。7～14はいずれも瓦質。

図版18-1～6は瓦。6は鯉瓦。7～11は硯。12～13は砥石。

図版19-1～10は焼塩壺。口縁部周囲を押さえて脣を形成し、端部を肉薄にするものと水平にカットし、端部に平坦面を形成して肉厚となるものの2種類が観察される。

SX04以外の遺構や包含層出土の陶磁器についても同様相を呈し、やはり碗が圧倒的に多いが、僅かに皿の割合が多くなっている。また、磁質製品に対する陶質製品の比率がやや増えた感がある。

遺物全般に、碗皿の類はそのほとんどが肥前系の磁器が占めており、その他の器種については瀬戸系を主体に唐津や信楽など十箇所を超える産地の製品が見られる。また時期的には1700年代のものが中心と考えられ、それ以降1800年中頃のもので大半を占める。現段階では江戸時代の前期まで遡る資料は把握し得ていない。体育館調査区出土遺物に比して、青磁、天目、抹茶碗が検出されない、地元の製品である湖東焼が確認できない、など幾つかの相違点が見いだされる。これは屋敷における如何なる空間を調査するかによって大きく異なり、本調査区は青磁や天目、更には比較的高級指向だったとされる湖東焼などは必要としない空間に位置していたものと推定される。

## 4. 調査の成果～結びにかえて

### (1) 遺構の在り方と機能

ここでは可能性の限りにおいて彦根城関連遺構-第1遺構面上に立地する武家屋敷跡-についてその機能を把えてみたい。

第1遺構面の中央を西流するSD01は長野家と西山家屋敷地の境界ラインとほぼ同一方向で、そのやや北西側に位置し、長野家屋敷地内の最南端に存在していたと考えられる。雨落ち溝と考えれば礎石などは失われているもののSD01の北方に建物が存在した可能性も考慮しなければ

ならない。しかし、西へ僅か10m程で土塁にあたることや蓋と考えられる石の存在など中壕に流入する排水溝としての可能性がより強いものと想定される。

彦根城の下水道はその排水に対する浄水処理について、現代よりはるかに行き届いた配慮があったことが彦根城表御殿の調査より明らかにされている<sup>④</sup>。表御殿では濠への直接排水はほとんど見られず、集水外などの施設を利用して浄水を図っており、SD01に敷き詰められた厚いバラスは浄水施設のひとつであった可能性が高い。

次にSX01、SX03の漆喰製造構は生活の中でどのように生かされていたのか。福井県一乗谷朝倉氏遺跡の武家屋敷復元家屋にSX01に類似する形状の石製品が「洗い場」として置かれていた。この石製品の周壁のたちあがりは10cm程で、SX01に同一機能を想定するならば同規模の周壁が復元できる。円形の深み部分は直接水が注ぐ水受けなのか、洗いを円滑にするための水溜りなのか、また流れ込んでいた上水の施設やSD01への排水処理などその使用の方法は判然としない。

SX03についても周壁が削平を受けているためどの程度上方まで立ち上がるか明らかではない。屋敷における位置は屋外と考えられ、水溜りの井戸として使用したものであろうか。

SX03に隣接するSK01は土壌内に底部に円孔を穿った壘が設置された施設である。同様の埋置遺構は体育館調査区、表御殿などにも存在し、また姫路城関連遺跡<sup>⑤</sup>などからも検出されているが、その機能については明確に把握し得ていない。現段階では埋葬施設の可能性が指摘される。この施設を埋葬の施設とするならば、当該期に屋敷裏の風習の有無を知見し得ず、検出例の多くが屋敷内のいわゆる奥向きに存在することなど、人知れず逝った者の水眠るところであり、孔はまさに息孔として再生を願ったものかもしれない。

屋敷地の境界に関連する可能性のある遺構にはSD02とSX05が導かれる。「御城下惣絵図」によれば長野家と西山家の境界ラインはほぼSD02の位置に合致しており、SD02が境界線などの側溝や掘方などの基礎部分となる可能性は否めない。

不整形な集石の遺構であるSX05はこの境界ラインに隣接する。長野家のように四千石の家老屋敷に廻る境界は、奥向きであったにせよ土塀若は板塀で、数箇所に門が置かれていたと考えられる。境界ラインはSX05より十数メートルで土塁にあたることから、SX05は長野家と西山家の境界線の最も南西部に存在していた門の基礎部分の残骸ではないだろうか。SD01を基準とした尺単位の割りつけ図（屋敷建築の設計推定図）に集石の並びが端数なく納まるのは単なる偶然としてかたづけられないものがある。

以上、主たる遺構の機能について推論を重ねた。個々の想定に対する是非は今後に検討されなければならないが、本調査区が長野氏の屋敷における奥向きの部分にあったこと、厨房施設の一部を含む所であること、武士の居住空間ではなくその生活を支えたいわゆる使用人の生活空

間と考えられることなどが理解されよう。

## (2) 長野氏のこと

では、ここに居住した長野氏は如何なる人物だったのか。これを検討し、本調査区である長野家屋敷の規模などの解明の一助としたい。

彦根藩役人帳によれば、藩政の枢機に係わる役職であった用人以上の人員構成は老中6（江戸1）- 禄高一万石～二千三百石、中老3- 禄高二千石～千三百石、用人9（江戸2）- 禄高二千石～五百石であり、通常五人衆と呼ばれた老中によって藩政の動きは決定づけられていた。以下に示すのは文書より知見し得る限りの家老名を抜き出したものである。

|             |                |               |
|-------------|----------------|---------------|
| 享保二年（1717）  | 木俣清左衛門（八千石）    | 庵原主税朝可（六千石）   |
|             | 長野十郎左衛門業則（四千石） | 三浦内膳元旭（三千五百石） |
|             | 宇津木治部右衛門久矣     |               |
| 享保六年（1721）  | 木俣清左衛門         | 長野十郎左衛門       |
|             | 西郷藤左衛門員許       |               |
|             | 宇津木治部衛門        |               |
| 文化十四年（1817） | 宇津木下總（江戸）      |               |
| 文政元年（1818）  | 横地佐平太（二千三百石）   |               |
| 文政六年（1823）  | 西郷伊予（三千三百石）    |               |
| 文政十一年（1828） | 木俣土佐（一万石）      | 庵原主税助（五千石）    |
|             | 小野田小一郎（三千石）    | 宇津木下總（三千五百石）  |
|             | 横地佐平太（二千三百石）   |               |
|             | 笹之間詰衆          | 長野十太郎（四千石）    |
|             |                | 中野三季介（三千五百石）他 |
| 文政十三年（1830） | 三浦内膳（二千五百石）    | 長野美濃（四千石）     |
| <天保七年（1836） | 長野伊豆>          |               |

これら散見する資料より長野氏は享保年間には既に四千石を奉ずる第三家老の地位にあったことが窺われる。そして文政十一年段階では江戸城廻りの間詰に相当する笹之間において藩主の路問に応ずる笹之間詰衆に名をつらわっているが、文政十三年には再び家老職に復帰している。家臣第一の長臣で代々筆頭家老の家柄の木俣氏は論の外として、変動の多い家老職の中で四千石という高禄を減ずることなくかなり安定した地位を保っていたようである。

長野氏は代々第一、第二の家老にはなりえず、藩史の表舞台には登場することがなかった。しかし、これは長野家の一家風とも考えられ、藩政の中心に出ないことによって安定した地位を保持してきた温厚な家柄だったのかもしれない。

この長野家屋敷はどの程度の規模を持っていたのか。御家中衆分限居町以呂波附板などのいく

つかの文書より、武家屋敷がかなり規制を受けていたことが明らかにされている<sup>⑤</sup>。それによると一万石以上は一例あり屋敷地825坪-建坪215.5坪-譜代家来94人で、以下五千石まで(一例)1680-267-28、三千石まで(五例)1457-321-16などとなっている。この数字は幕末の頃のものであり鶴呑には出来ないが、如何に長野家が大規模な屋敷を保有していたか理解できよう。

## 5. おわりに

彦根城の調査が今後の近世考古学の分野に大きな影響力をもつものであることに疑問はない。本調査においても多くの貴重な資料を掲出できた。しかし、現段階ではあくまで掲げただけであり、考古学的資料に基づく確実な検討は何ひとつなされていない。近世文書の発掘調査、近世陶磁の分類、および編年的研究と流通調査、建築学の視座からの屋敷地研究など残された課題は多い。本調査が今後の周辺調査とともにより貴重な資料として生かされることを期待したい。

参考文献 中村達夫「ある漏瀆事件」『彦根史談』

彦根史談会「土組附帳」「彦根幕役人帳」「彦根旧記集成第六号」

註 ①谷口 徹他「特別史跡彦根城発掘調査報告書Ⅰ」彦根市教育委員会1985

②滋賀県立風土記の丘資料館編「出土品にみる江戸時代の生活」1982

③滋賀県文化財保護協会の藤垣正宏氏に多くの資料を提供していただいた。

④彦根市博物館学芸員 谷口 徹氏の御教示による。

⑤長谷川真他「特別史跡姫路城跡」兵庫県立歴史博物館1984

⑥彦根市教育委員会編「彦根市史」第四編近世P435



出土遺物觀察表 第2表 遺物觀察表 (1)

| 押図No | 造 構   | 器種 | 口径   | 器高   | 外面文様       | 内面文様 | 胎土 | 釉 調    | 貫入 | 備考 |
|------|-------|----|------|------|------------|------|----|--------|----|----|
| 7-1  | S X 4 | 碗  | 9.9  | 5.3  | 蓮花、岩       | 松    | 磁質 | 白      |    |    |
| 7-2  | S X 4 | 碗  | 19.9 | 5.1  | 岩、萩        |      | 磁質 | 淡青白、光沢 |    |    |
| 7-3  | S X 4 | 碗  | 12.8 | 6.0  |            |      | 磁質 | 淡青白    |    |    |
| 7-4  | S X 4 | 碗  | 11.6 | 5.8  | 唐草         |      | 磁質 | 淡青白    |    |    |
| 7-5  | S X 4 | 碗  | 10.0 | 4.9  | 蓮花、杉苔      |      | 磁質 | 淡青白、光沢 |    |    |
| 7-6  | S X 4 | 碗  | 12.4 | 6.0  | 蓮弁、丸玉      | 桜、梅  | 磁質 | 灰白     |    |    |
| 7-7  | S X 4 | 碗  | 10.6 | 5.1  | 松          |      | 磁質 | 白、光沢   | 有  |    |
| 7-8  | S X 4 | 碗  | 10.4 | 4.8  | 菊花、格子      |      | 磁質 | 白      |    |    |
| 7-9  | S X 4 | 碗  | 10.1 | 5.35 | 海老、桜       | 桜花   | 磁質 | 白      |    |    |
| 7-10 | S X 4 | 碗  | 10.2 | 5.7  | 唐草         | 鶯    | 磁質 | 白      |    |    |
| 7-11 | S X 4 | 碗  | 11.6 | 6.75 | 草花文        | 寿字   | 磁質 | 淡青白、光沢 |    |    |
| 7-12 | S X 4 | 碗  | 10.4 | 6.1  | 丸文         | 梅    | 磁質 | 灰、光沢   |    |    |
| 7-13 | S X 4 | 碗  | 11.4 | 6.0  | 梅          | 梅    | 陶質 | 淡黄白    | 有  |    |
| 7-14 | S X 4 | 小碗 | 5.4  | 2.9  | 海老         |      | 磁質 | 白、光沢   |    |    |
| 7-15 | S X 4 | 碗  | 7.4  | 3.35 | 松          |      | 磁質 | 淡青白、光沢 |    |    |
| 7-16 | S X 4 | 小碗 | 5.5  | 3.0  | 色絵、梅       |      | 磁質 | 白      |    |    |
| 7-17 | S X 4 | 碗  | 11.4 | 5.9  | 海浜園        | 岩、松  | 磁質 | 白、光沢   |    |    |
| 7-18 | S X 4 | 碗  | 10.2 | 5.7  | 海浜園        | 岩、松  | 磁質 | 青白     |    |    |
| 7-19 | S X 4 | 碗  | 10.8 | 6.4  | 蓮弁、扇       | 寿字   | 磁質 | 白、光沢   |    |    |
| 7-20 | S X 4 | 碗  | 10.5 | 7.1  | 海浜園        | 文字   | 磁質 | 青灰白    |    |    |
| 7-21 | S X 4 | 碗  | 12.4 | 7.2  |            | 丸、梅  | 磁質 | 灰      |    |    |
| 8-1  | S X 4 | 碗  | 11.4 | 6.6  |            |      | 陶質 | 灰褐     | 有  |    |
| 8-2  | S X 4 | 碗  | 12.0 | 5.5  | 柳          |      | 陶質 | 灰褐     |    | 墨書 |
| 8-3  | S X 4 | 碗  | 9.1  | 5.3  | 鉄彩         |      | 陶質 | 黄灰褐    |    |    |
| 8-4  | S X 4 | 碗  | 11.4 | 6.1  | 松皮         |      | 磁質 | 青緑     | 有  |    |
| 8-5  | S X 4 | 小碗 | 7.9  | 7.3  | 色絵、波<br>草花 |      | 磁質 | 白      |    |    |
| 8-6  | S X 4 | 小碗 | 9.2  | 3.55 | 色絵、草花      |      | 磁質 | 白      |    |    |
| 8-7  | S X 4 | 小碗 | 5.4  | 2.6  | 色絵、海老      |      | 磁質 | 白、光沢   |    |    |
| 8-8  | S X 4 | 皿蓋 | 10.0 | 3.15 | 桜          | 蝶    | 磁質 | 白、光沢   |    |    |
| 8-9  | S X 4 | 小鉢 | 15.0 | 5.0  | 輪花、椿       | 椿    | 磁質 | 淡青白、光沢 |    | 墨書 |

第3表 遺物觀察表 (2)

| 押図No | 造 構   | 器種 | 口径   | 器高   | 外面文様   | 内面文様   | 胎土  | 釉 關    | 貫入 | 備考 |
|------|-------|----|------|------|--------|--------|-----|--------|----|----|
| 8-10 | S X 4 | 皿  | 10.0 | 2.8  | 紅葉、波   | 花菱、梅   | 磁質  | 白、光沢   |    |    |
| 8-11 | S X 4 | 皿  | 10.4 | 2.55 | 花菱     | 唐草     | 磁質  | 淡青白、光沢 |    |    |
| 8-12 | S X 4 | 小皿 | 9.0  | 1.8  |        | 菱形     | 陶質  | 淡灰褐    | 有  |    |
| 8-13 | S X 4 | 小皿 | 7.8  | 1.2  |        |        | 土師質 | 明黄褐    |    |    |
| 8-14 | S X 4 | 湯呑 | 8.2  | 5.6  | 松      |        | 陶質  | 白、光沢   |    |    |
| 8-15 | S X 4 | 湯呑 | 8.4  | 5.5  | 柳      | 松      | 陶質  | 白、光沢   |    |    |
| 8-16 | S X 4 | 湯呑 | 8.8  | 6.1  | 矢羽根    |        | 陶質  | 白      |    |    |
| 8-17 | S X 4 | 湯呑 | 9.2  | 6.0  |        |        | 陶質  | 灰白     |    |    |
| 8-18 | S X 4 | 湯呑 | 8.2  | 5.0  | 菊      |        | 陶質  | 灰青     | 有  |    |
| 8-19 | S X 4 | 湯呑 | 7.7  | 5.8  | 松竹梅    |        | 磁質  | 光沢     |    | 器書 |
| 8-20 | S X 4 | 湯呑 | 7.2  | 5.5  | 菊、斜格子  | 菱、梅    | 磁質  | 白      |    |    |
| 8-21 | S X 4 | 猪口 | 8.15 | 6.6  | 草花     | 草花     | 磁質  | 光沢     |    |    |
| 8-22 | S X 4 | 猪口 | 7.9  | 6.6  | 色絵、竹、梅 | 菱、梅、舟松 | 磁質  | 淡青白    |    |    |
| 9-1  | S X 4 | 大盤 | 30.5 | 5.5  | 青磁     |        | 磁質  | 黄緑     |    |    |
| 9-2  | S X 4 | 大皿 | 26.8 | 6.5  | 馬ノ目    |        | 陶質  | 淡黄白、光沢 | 有  |    |
| 9-3  | S X 4 | 鉢  | 40.4 | 13.8 | 波状     |        | 陶質  |        |    |    |
| 9-4  | S X 4 | 小鉢 | 11.2 | 6.9  | 菊      |        | 陶質  | 灰白     |    |    |
| 9-5  | S X 4 | 小鉢 | 6.8  | 3.8  |        |        | 陶質  | 褐      |    |    |
| 9-6  | S X 4 | 火入 | 4.9  | 5.2  |        |        | 陶質  | 黄褐     |    |    |
| 9-7  | S X 4 | 火入 | 14.2 | 6.2  |        |        | 陶質  | 黄灰     |    |    |
| 9-8  | S X 4 | 土瓶 | 9.8  | 11.0 |        |        | 陶質  | 灰茶褐、光沢 | 有  |    |
| 9-9  | S X 4 | 罇  | 22.5 | 10.2 |        |        | 陶質  | 淡黄白、光沢 | 有  |    |
| 10-1 | S X 4 | 蓋  | 14.2 | 2.4  | 直弧     |        | 陶質  | 淡灰褐    | 有  |    |
| 10-2 | S X 4 | 蓋  | 21.1 | 5.0  | 直弧     |        | 陶質  | 淡灰褐    |    |    |
| 10-3 | S X 4 | 蓋  | 17.8 | 4.1  | 直弧     |        | 陶質  | 淡灰褐    | 有  |    |
| 10-4 | S X 4 | 蓋  | 13.2 | 3.45 | 直弧     |        | 陶質  | 淡灰褐    | 有  |    |
| 10-5 | S X 4 | 蓋  | 20.2 | 3.55 | 直弧     |        | 陶質  | 淡灰褐    | 有  |    |
| 10-6 | S X 4 | 蓋  | 14.7 | 3.3  | 直弧     |        | 陶質  | 淡黄褐    | 有  |    |
| 10-7 | S X 4 | 蓋  | 14.1 | 3.1  | 直弧     |        | 陶質  | 褐      | 有  |    |
| 10-8 | S X 4 | 蓋  | 20.6 | 4.0  | 直弧     |        | 陶質  | 淡灰褐    | 有  |    |

第4表 遺物觀察表 (3)

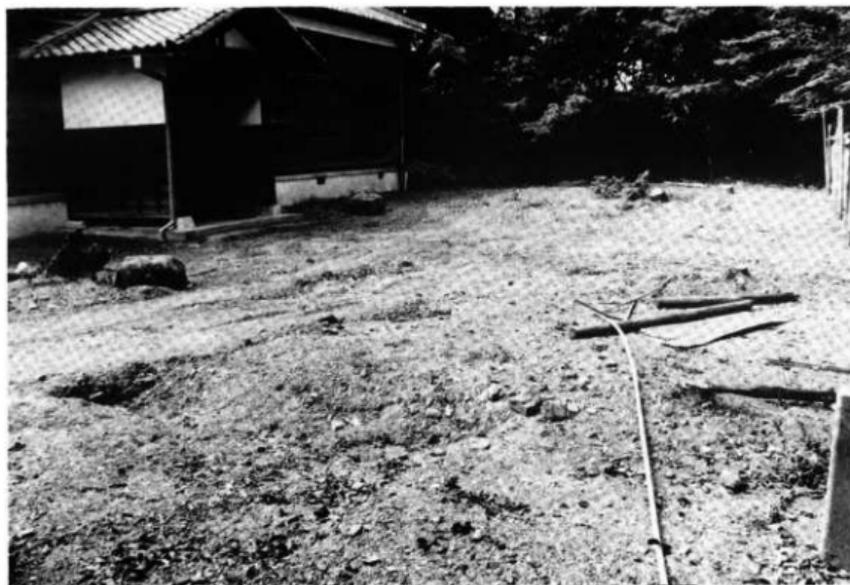
| 標圖No  | 造 構   | 器種  | 口径   | 器高   | 外面文様 | 内面文様 | 胎土 | 釉 調   | 貫入 | 備考 |
|-------|-------|-----|------|------|------|------|----|-------|----|----|
| 10-9  | S X 4 | 行平  | 9.7  | 4.7  | 草花   |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-10 | S X 4 | 行平  | 8.3  | 3.6  | 花鳥   |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-11 | S X 4 | 行平  | 6.2  | 3.9  | 花鳥   |      | 陶質 | 淡青    | 有  |    |
| 10-12 | S X 4 | 行平  | 8.6  | 3.7  | 菱、竜  |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-13 | S X 4 | 行平  | 14.1 | 4.4  | 波、人  |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-14 | S X 4 | 行平  | 8.5  | 3.8  | 寿字   | 菱    | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-15 | S X 4 | 行平  | 9.7  | 4.7  |      |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-16 | S X 4 | 行平  | 12.6 | 5.3  | 寿字   |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-17 | S X 4 | 行平  | 13.8 | 7.0  | 寿字   |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-18 | S X 4 | 行平  |      |      | 扇、松  |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-19 | S X 4 | 行平  |      |      |      |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-20 | S X 4 | 行平  |      |      |      |      | 陶質 | 淡灰褐   |    |    |
| 10-21 | S X 4 | 土瓶  | 15.6 | 6.4  | 直弧   |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 10-22 | S X 4 | 土瓶  | 7.4  | 4.4  | 直弧   |      | 陶質 | 淡灰褐   | 有  |    |
| 11-1  | S X 4 | 仏具? | 7.4  | 2.8  |      |      | 陶質 | 赤褐、光沢 | 有  |    |
| 11-2  | S X 4 | 灯明具 | 3.2  | 4.5  |      |      | 陶質 | 光沢    | 有  |    |
| 11-3  | S X 4 | 水差  | 2.5  | 3.7  | 雲    |      | 陶質 | 白     | 有  |    |
| 11-4  | S X 4 | 水差  | 5.4  | 4.1  |      |      | 陶質 | 淡青白   |    |    |
| 11-5  | S X 4 | 仏具  | 7.0  | 6.8  | 店草   |      | 磁質 | 白、光沢  |    |    |
| 11-6  | S X 4 | 火入  | 15.2 | 10.3 |      |      | 陶質 | 淡褐    | 有  |    |
| 11-7  | S X 4 | 壺   | 17.3 |      |      |      | 陶質 | 暗茶褐   |    |    |
| 11-8  | S X 4 | 炬燵  | 11.6 | 16.6 |      |      | 瓦質 | 黒褐    |    |    |
| 12-1  | S X 4 | 火鉢  | 24.3 | 11.6 |      |      | 瓦質 | 黒褐    |    |    |
| 12-2  | S X 4 | 火入? | 17.6 | 10.5 |      |      | 瓦質 | 暗灰    |    |    |
| 12-3  | S X 2 | 向付  | 9.15 | 4.95 | 草花   |      | 陶質 | 緑灰    |    |    |
| 12-4  | S X 2 | 瓶   |      |      |      |      | 陶質 | 茶褐、光沢 |    |    |
| 12-5  | S X 2 | 揺鉢  | 38.2 | 13.7 |      |      | 陶質 | 赤褐    |    |    |
| 12-6  | S X 5 | 火入  | 7.6  | 3.3  |      |      | 陶質 | 赤褐    |    |    |
| 12-7  | S X 5 | 鉢   | 17.2 | 6.8  | 輪花   |      | 陶質 | 黄褐    |    |    |
| 12-8  | S X 3 | 土鍋  | 15.2 | 7.5  | 波状   |      | 陶質 | 褐     |    | 蓋有 |

第5表 遺物観察表(4)

| 挿図No  | 造 構    | 器種   | 口径   | 器高   | 外面文様  | 内面文様  | 胎土  | 釉 調   | 貫入 | 備考 |
|-------|--------|------|------|------|-------|-------|-----|-------|----|----|
| 12-9  | S X 5  | 灯明具  | 9.7  | 8.6  |       |       | 陶質  | 緑褐、光沢 | 有  |    |
| 13-1  | S X 2  | 碗    | 10.2 | 5.5  | 草花    |       | 磁質  | 緑白    | 有  |    |
| 13-2  | S X 2  | 碗    | 4.8  | 3.3  | 山水    |       | 磁質  | 青白、光沢 |    |    |
| 13-3  | S X 2  | 碗    | 12.0 | 6.0  | 草花    | 草花    | 陶質  | 淡黄白   | 有  |    |
| 13-4  | S X 2  | 碗    | 11.4 | 6.7  | 流水    |       | 磁質  | 青白    |    |    |
| 13-5  | S X 5  | 碗    | 8.6  | 4.3  | 青磁    |       | 磁質  | 灰白、光沢 |    |    |
| 13-6  | S X 2  | 皿(鑿) | 13.3 | 2.9  | 海浜、梅  | 波     | 磁質  | 白、光沢  |    |    |
| 13-7  | S X 2  | 皿    | 8.8  | 2.0  | 舟     | 海浜    | 磁質  | 白     |    |    |
| 13-8  | S X 2  | 皿(鑿) | 6.2  | 1.4  | 松     | 水割    | 磁質  | 白     | 有  |    |
| 13-9  | S X 2  | 皿    | 11.6 | 2.5  |       |       | 瓦質  | 黒褐    |    |    |
| 13-10 | S X 2  | 皿    | 11.0 | 1.6  |       |       | 土師質 | 赤褐    |    |    |
| 13-11 | S X 2  | 皿    | 12.1 | 2.2  |       |       | 土師質 | 黄褐    |    |    |
| 13-12 | S X 5  | 皿    | 9.8  | 2.6  | 輪花    | 草花    | 磁質  | 青白、光沢 |    |    |
| 13-13 | S X 5  | 皿    | 9.0  | 2.0  | 松     |       | 磁質  | 青白、光沢 |    |    |
| 13-14 | S X 5  | 皿    | 10.2 | 2.4  | 松葉    | 山海    | 磁質  | 青白、光沢 |    |    |
| 13-15 | S D 1  | 皿(鑿) | 10.2 | 3.4  | 花、柳、亀 | 波     | 磁質  | 青白、光沢 |    |    |
| 13-16 | S D 1  | 皿(鑿) | 9.4  | 2.7  | 草花、唐草 | 雲     | 磁質  | 青白、光沢 |    | 墨書 |
| 13-17 | S D 1  | 皿    | 8.0  | 2.2  | 菊     | 馬     | 磁質  | 灰白    | 有  |    |
| 13-18 | S D 1  | 皿    | 10.0 | 2.05 |       | 唐草、梅  | 磁質  | 青白    |    | 墨書 |
| 13-19 | S D 1  | 皿(鑿) | 10.8 | 3.1  | 牡丹、唐草 | 菱     | 磁質  | 青白、光沢 |    |    |
| 13-20 | S D 1  | 皿(鑿) | 9.8  | 3.6  | 青磁    | 梅     | 磁質  | 青緑    |    |    |
| 13-21 | S D 1  | 角皿   |      | 2.6  |       | 人物、風景 | 磁質  | 白、光沢  |    | 墨書 |
| 13-22 | S D 1  | 角皿   |      | 2.5  | 松葉    | 花菱    | 磁質  | 白     | 有  |    |
| 13-23 | S D 3  | 湯呑   | 6.5  | 4.9  | 色絵、花  |       | 陶質  | 鉄     | 有  |    |
| 13-24 | S K 1  | 皿    | 11.2 | 2.2  |       |       | 土師質 | 黄灰褐   |    |    |
| 13-25 | S K 2  | 碗    | 10.2 | 5.6  | 網目    |       | 磁質  | 灰白    |    |    |
| 13-26 | S K 3  | 碗    | 12.2 | 6.1  |       |       | 陶質  | 藍     | 有  |    |
| 13-27 | S K 3  | 皿(鑿) | 10.0 | 2.6  | 唐草    | 松竹梅   | 磁質  | 白     |    | 墨書 |
| 13-28 | S K 11 | 碗    | 8.6  | 4.2  |       |       | 磁質  | 白、光沢  | 有  |    |
| 14-1  | S X 5  | 柄杓   | 8.6  | 5.45 | 菊     |       | 磁質  | 赤褐    | 有  |    |

第6表 遺物観察表 (5)

| 挿図No  | 遺構   | 器種  | 口径   | 器高   | 外面文様 | 内面文様 | 胎土 | 釉     | 測 | 貫入 | 備考 |
|-------|------|-----|------|------|------|------|----|-------|---|----|----|
| 14-2  | SK11 | 德利  | 4.4  | 25.0 | 文字   |      | 陶質 | 肌     |   |    |    |
| 14-3  | SK11 | 急須  | 7.6  | 6.55 | 松    |      | 陶質 | 淡黄白   |   |    |    |
| 14-4  | SK11 | 行平  | 17.2 | 10.7 |      |      | 陶質 | 淡黄白   |   | 有  |    |
| 14-5  | SK11 | 鍋   | 17.5 | 8.6  |      |      | 陶質 | 褐     |   |    |    |
| 14-6  | SK11 | 鍋   | 20.8 | 11.5 |      |      | 陶質 | 淡黄白   |   |    |    |
| 14-7  | SX4  | 碗   | 12.0 | 4.85 | 梅    |      | 漆器 |       |   |    |    |
| 14-8  | SX4  |     |      |      |      |      | 木器 |       |   |    |    |
| 14-9  | SX4  | 底板  |      |      |      |      | 木器 |       |   |    |    |
| 14-10 | SX4  | 杓文字 |      |      |      |      | 木器 |       |   |    |    |
| 15-1  | 包含層  | 碗   | 11.0 | 6.1  | 印判   | 菱    | 磁質 | 灰白    |   |    |    |
| 15-2  | 包含層  | 碗   | 9.8  | 5.3  | 印判   |      | 磁質 | 灰白    |   |    | 墨書 |
| 15-3  | 包含層  | 煎茶碗 | 9.4  | 5.3  | 海浜   | 岩    | 磁質 | 灰白、光沢 |   |    |    |
| 15-4  | 包含層  | 煎茶碗 | 9.3  | 5.0  | 菊    |      | 磁質 | 灰白、光沢 |   |    |    |
| 15-5  | 包含層  | 碗   | 7.4  | 3.4  | 色絵、蓮 |      | 磁質 | 灰白    |   |    |    |
| 15-6  | 包含層  | 碗   | 10.0 | 5.1  | 瑠璃碗  | 草花   | 磁質 | 淡黄    |   |    |    |
| 15-7  | 包含層  | 皿   | 13.8 | 4.6  | 唐草   | 竹、梅  | 磁質 | 灰白    |   |    | 墨書 |
| 15-8  | 包含層  | 皿   | 13.6 | 4.9  | 唐草   | 草花   | 磁質 | 青灰    |   |    | 墨書 |
| 15-9  | 包含層  | 皿   | 13.2 | 4.7  | 唐草   | 草花   | 磁質 | 灰     |   |    | 墨書 |
| 15-10 | 包含層  | 鉢   | 11.9 | 8.1  | 萩    |      | 磁質 | 白、光沢  |   |    |    |
| 15-11 | 包含層  | 鉢   | 13.8 | 8.7  | 菱、雲  | 花鳥   | 磁質 | 白、光沢  |   |    |    |
| 15-12 | 包含層  | 猪口  | 8.4  | 6.1  | 竹、桜  | 桜    | 磁質 | 白、光沢  |   |    |    |
| 15-13 | 包含層  | 香合  | 5.5  | 1.7  | 水草   |      | 磁質 | 白、光沢  |   |    |    |
| 15-14 | 包含層  | 灯明皿 | 4.7  | 1.7  |      |      | 陶質 | 緑灰    |   |    | 墨書 |
| 15-15 | 側溝   | 油壺  | 4.8  | 9.1  | 梅、竹  |      | 陶質 | 灰     |   |    |    |
| 15-16 | 側溝   | 双耳壺 | 7.6  | 6.3  |      |      | 陶質 | 淡黄    |   | 有  |    |
| 15-17 | 側溝   | 風呂  |      |      | 獅子、菊 |      | 瓦質 | 黒褐    |   |    |    |
| 15-18 | 側溝   | 風呂  | 29.8 | 23.8 |      |      | 瓦質 |       |   |    |    |
| 15-19 | 側溝   | 植木鉢 | 11.6 | 10.0 |      |      | 陶質 | 赤褐    |   |    |    |
| 15-20 | 側溝   | 植木鉢 | 14.0 | 11.6 |      |      | 陶質 | 赤褐    |   |    |    |



調査前状況（北東より）



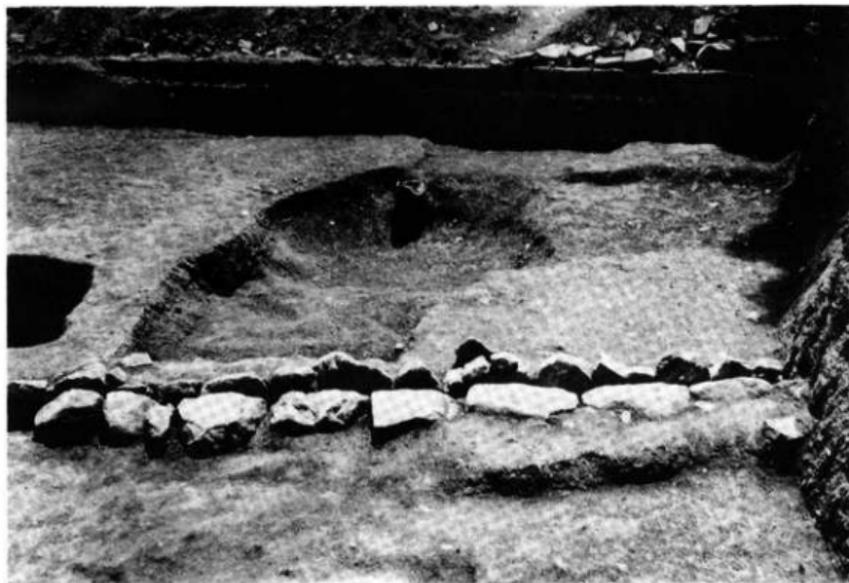
第1遺構面全景（北東より）



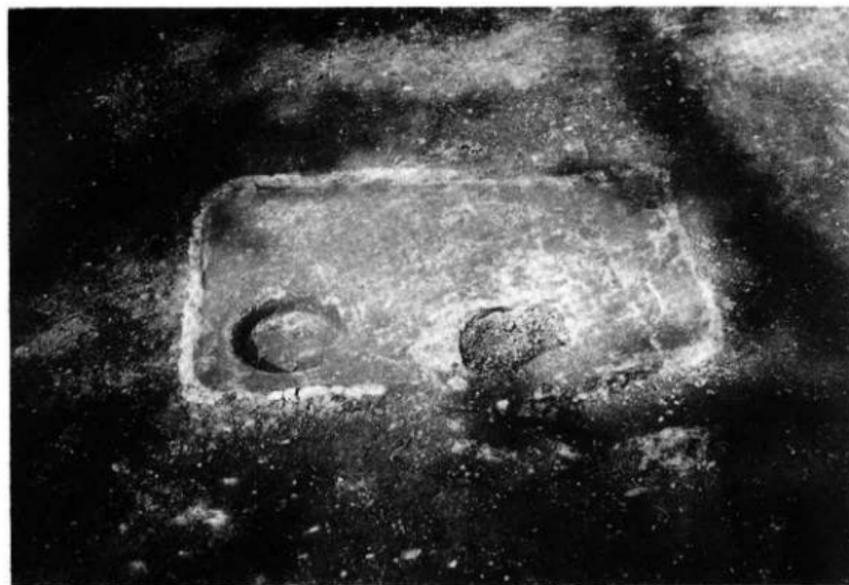
SD01 石組部分と周辺の遺構群 (南東より)



SD01 パラス検出状況 (南より)



SX02 (北西より)



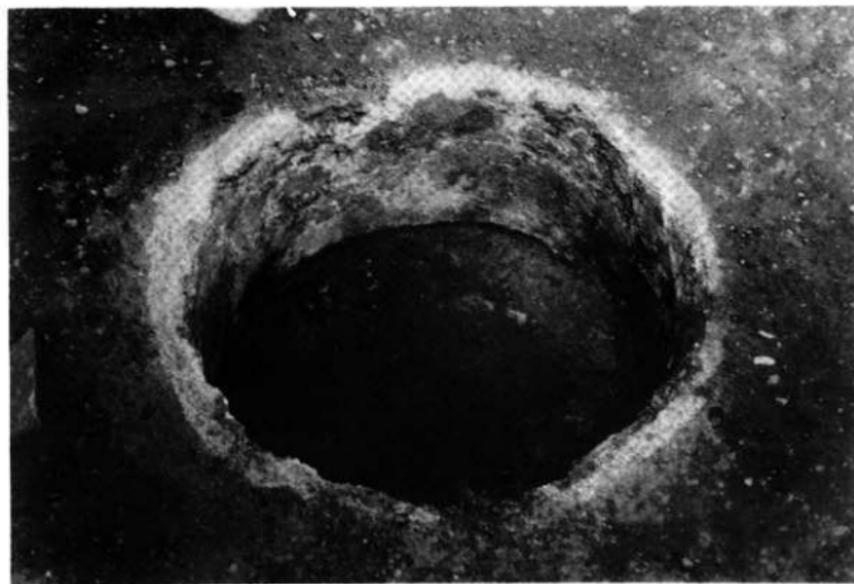
SX01 (南西より)



SK02 (北より)



SK01 (東より)



SX03 (東より)



SX05 (北東より)



トレンチ全景（東より）



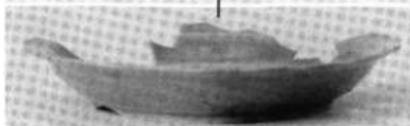
SX04（北西より）







1



2



3



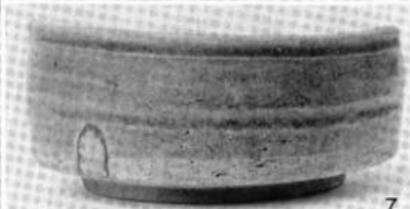
4



5



6



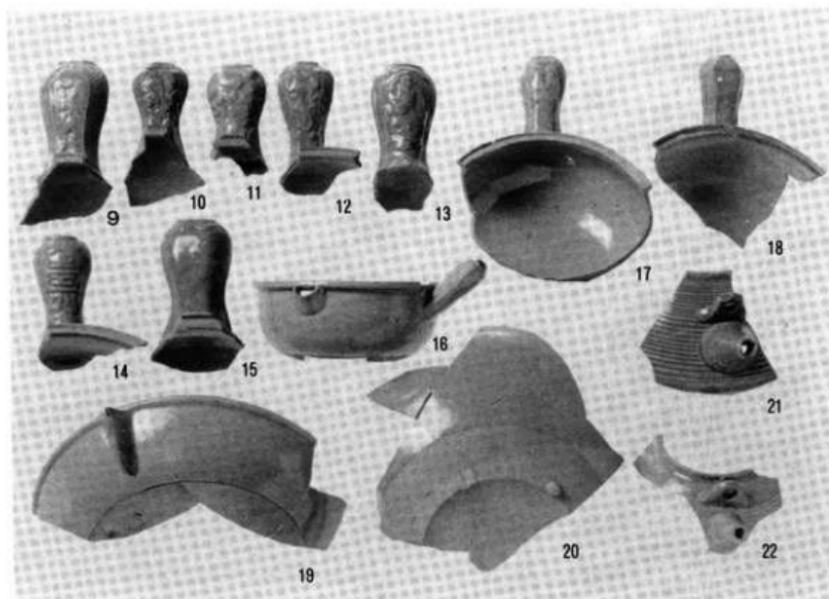
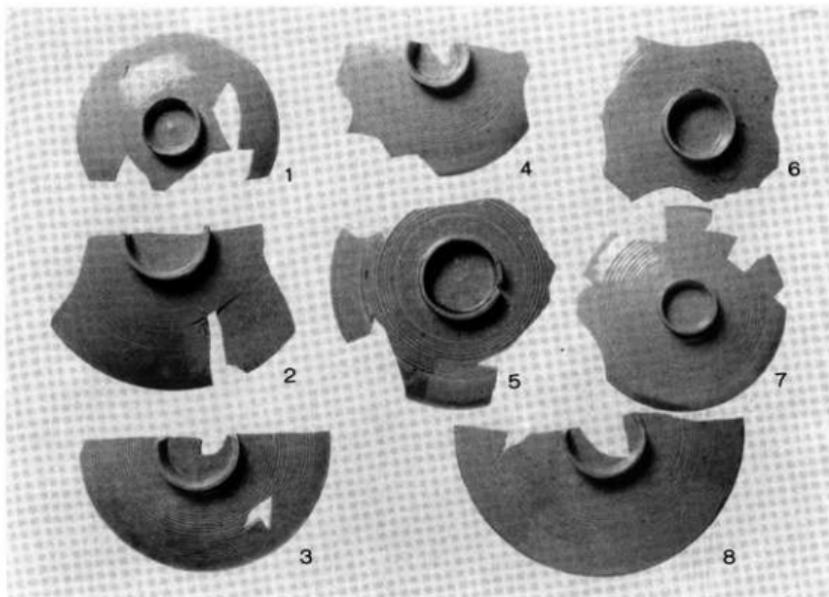
7

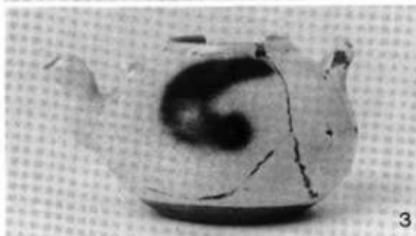
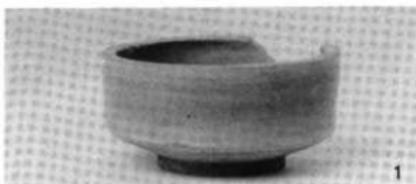


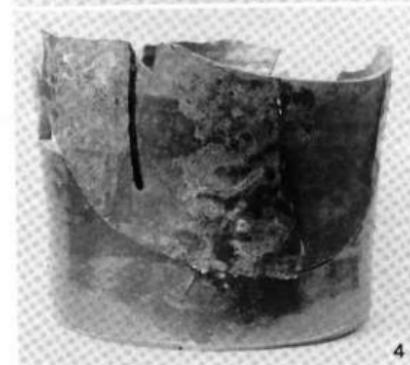
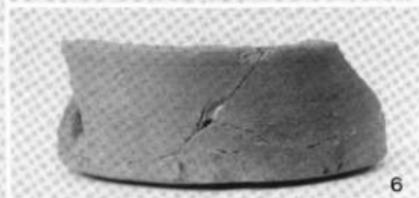
8



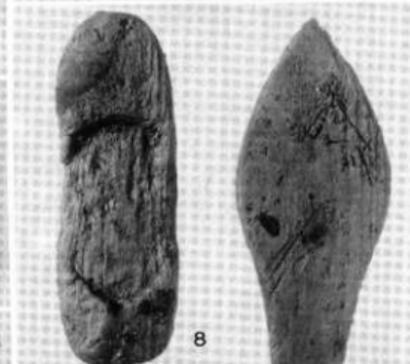
9



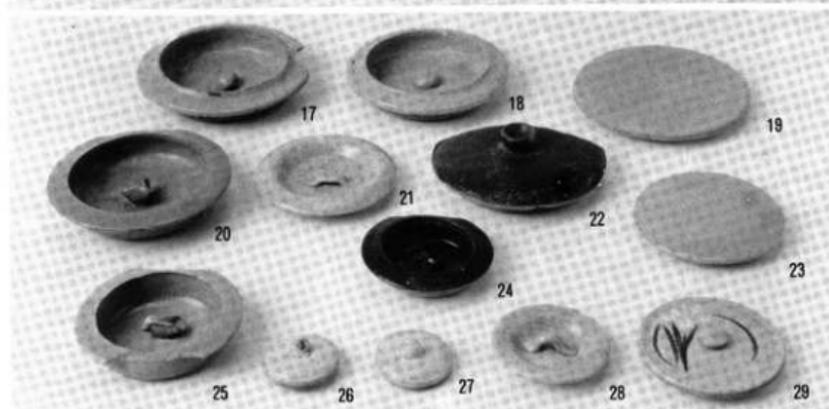
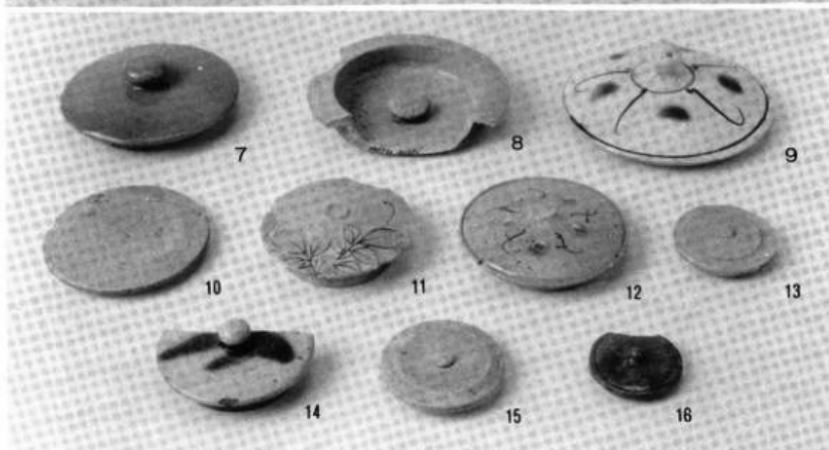
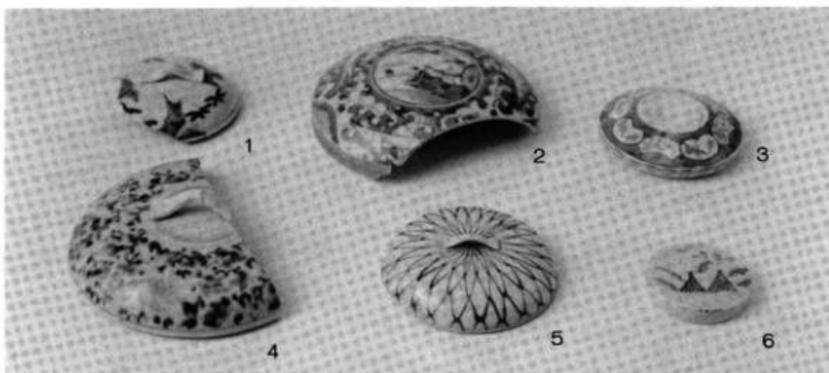


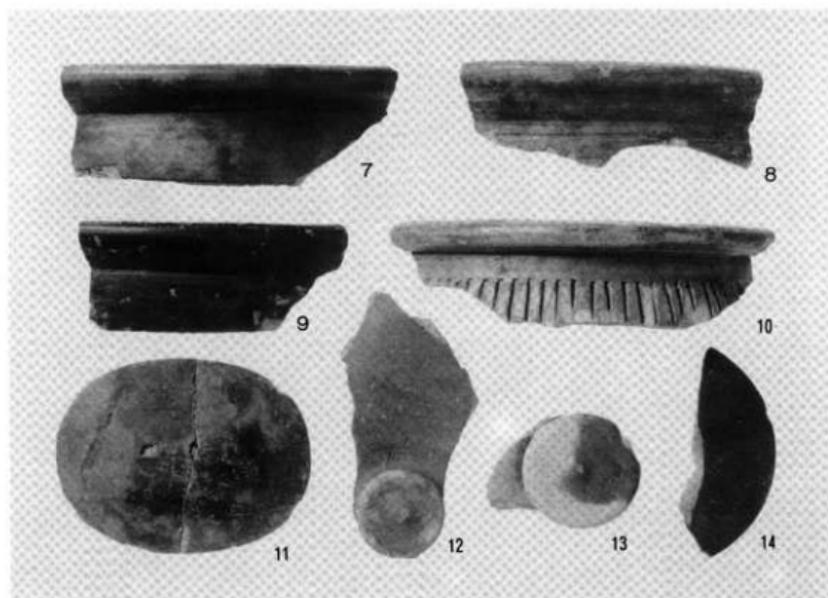
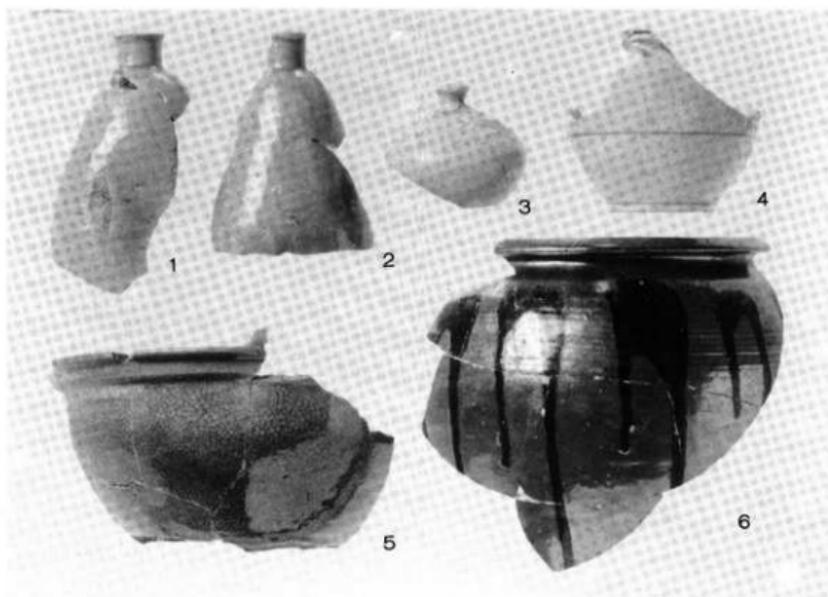


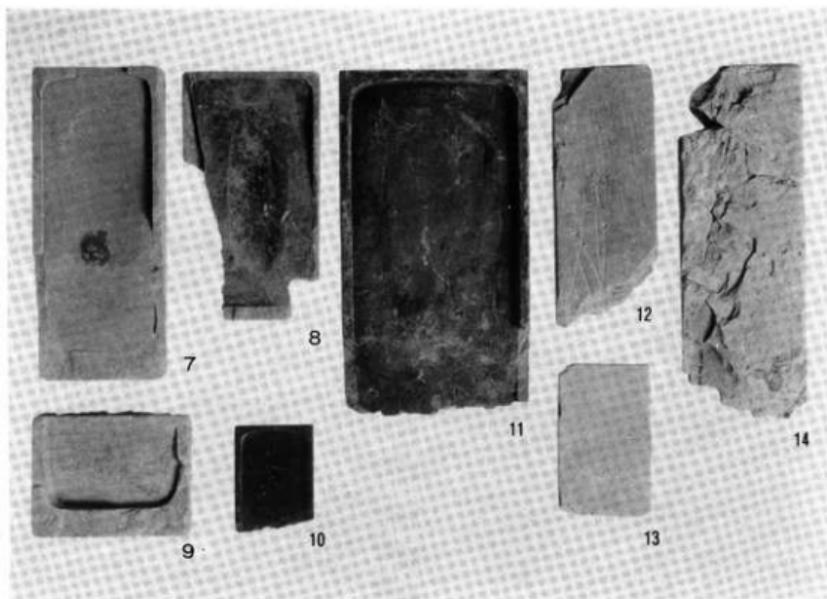


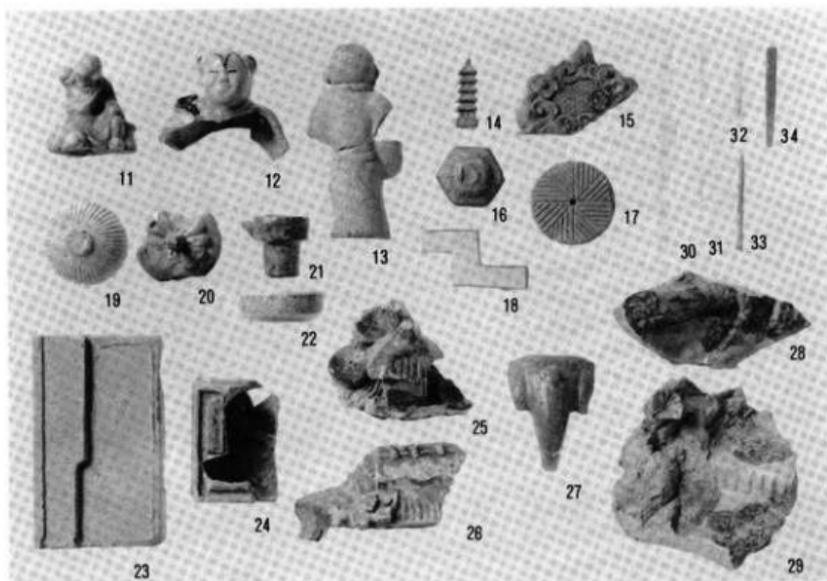
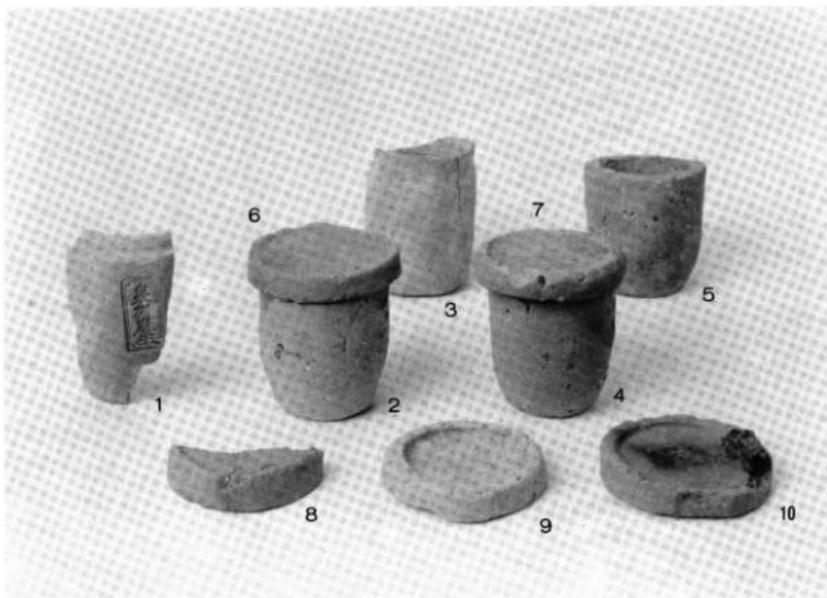


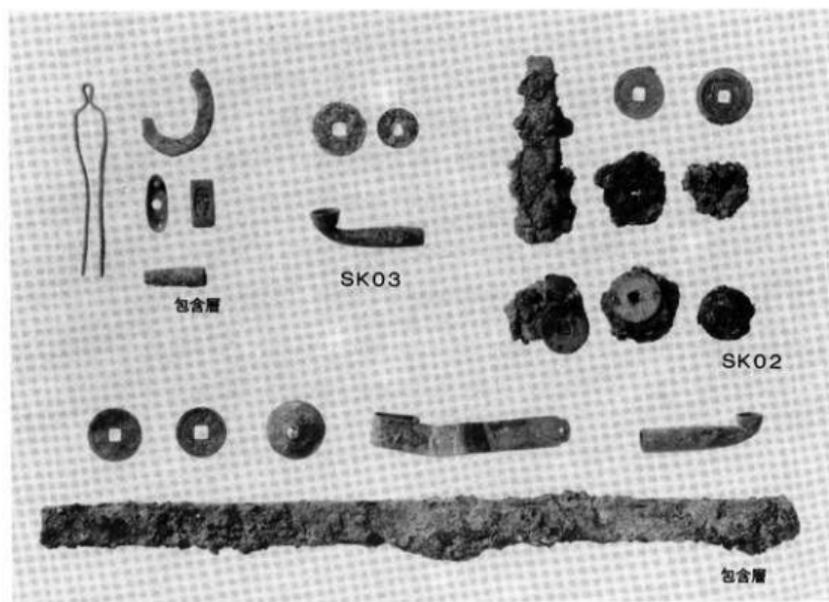
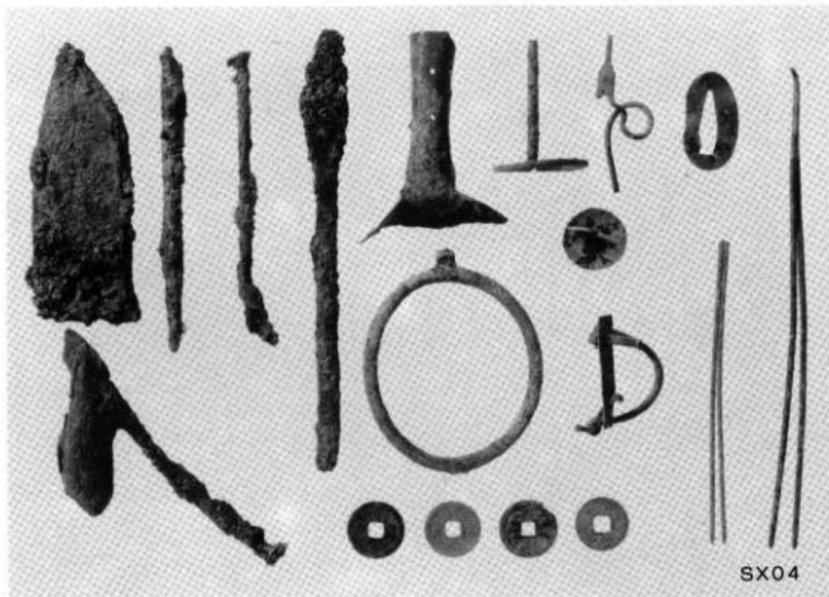












昭和62年3月

## 特別史跡『彦根城』

—県立彦根東高等学校資料室建設に伴う発掘調査報告書—

編集・発行 滋賀県教育委員会文化財文化財保護課  
大津市京町四丁目1-1  
電話 0775-24-1121 内線 2536

跡滋賀県文化財保護協会  
大津市瀬田南大萱町1732-2  
電話 0775-48-9781

印刷所 富士出版印刷株式会社  
大津市札の辻4-20